

指導者 広島市立東野小学校

教諭 山田 裕美子(T1)

清藤 千恵弥(T2)

1 日時・場所 平成24年1月19日(木)第5校時、北校舎1階 1-3教室

2 学年・組 第1学年3組(男子15名 女子13名 計28名)

3 題材名 「ちぎって はって なにができるかな」 —A表現・B鑑賞—

4 題材について

○本学級の児童は、図画工作科の時間を楽しみにしており、意欲的に取り組もうとする。一方で、失敗することに敏感で、うまくいかないと途中であきらめそうになる姿が度々見られる。

発想や構想については、楽しそうに想像をふくらませていく児童が多いが、表現したいことのイメージが思い浮かばず取りかかりに時間がかかる児童がおり、常に声かけ等の支援が要る。また、形や色を考えて自己表現するまでには至っていない児童もいる。

技能面では、丁寧に取り組むことができる児童が増えてきたが、材料や用具を表したいことに合わせ工夫して使えず、満足感を十分に味わえていない児童がいる。また、これまでにのりを使った経験が少ないため、指先の感覚を生かして塗るのに苦労する児童もいる。

鑑賞に関しては、これまで、表現活動の後、すぐにできあがった作品を机上において見て回る時間をとったり、黒板に掲示したりするなどして、鑑賞活動を取り入れてきた。その際、児童は、喜んで自分の作品を友達に紹介したり、友達の作品のすてきなところを見つけたりしている。しかし、1時間の全てを使って鑑賞活動に取り組んだ経験は少ない。また、児童は、友達の作品のよさを意欲的に発表しようとするが、「すごいです。」「いいです。」といったように、具体性にかけており、形や表し方の面白さなどに気付けるようにしていきたい。

○本題材は、段ボールを思いのままにいろいろな形にちぎった後、自分の気に入る形を選び、それを何かに見立てて画用紙にはりつけ、さらに、その形からイメージしたものをパスでかいていくというものである。段ボールを材料に選ぶにあたっては、3つの理由がある。1つ目に、児童の身近にあるものを用いることで材料に親しみをもてること、2つ目に、紙の中でも使ったことのない材質のおもしろさを味わえること、3つ目に、ある程度の堅さがあることで児童の手や体全体の感覚を働かせる活動になることが挙げられる。導入において、段ボールを思いのままにちぎる活動から始めることで、「上手にできなかつたら、どうしよう。」と失敗を恐れがちな児童は、活動に取り組みやすくなる。また、真っ白な大きな紙から始めることに抵抗のある児童は、まず段ボールを貼って紙のスペースがうまることで、自分が活動できているという安心感をもつことができる。さらに、のりの使い方を指導し、段ボールを並べたり組み合わせたりして、いろいろな表現を楽しむ児童や、ちぎるといったはさみにはない手作り感を楽しむ児童もいるだろう。また、手や体全体の感覚を使って段ボールの面白さを感じ、自分自身が楽しく活動できれば、友達の作品を鑑賞する際も形の変化や表現の工夫に気付くなど、興味・関心をもって見るができると考え、この題材を設定した。

○指導にあたっては、表現段階において、まず、導入で教師が段ボールになりきって児童と会話をしたり、段ボールをほぐす活動を取り入れたりと、児童と段ボールとの出会いを大切に、親しみをもたせたい。そして、教師が思いっきり楽しみながら段ボールをちぎる姿を見せることで、ちぎる活動への児童の意欲を高める。さらに、ちぎる活動を終わる際は音楽で知らせ、児童が楽しんでできるように工夫したい。また、のりの塗り方や使い分けなど整理して示しておく。それから、イメージが浮かびにくい児童への支援として、積極的に児童の側に行

き、対話を通して児童の思いを引き出すことを考えている。

鑑賞活動では、まず、ペアでお互いの作品を見合い、偶然にできた段ボールの形からどんな絵ができたか想像し、自分が思ったり感じたりしたことを友達と伝え合って、お互いの作品のよさを感じさせたい。自分の考えに自信がもてない児童には、教師からの声かけやペアの児童の言葉がけで支援したい。また、友達の作品をじっくり見るということに重点を置いて、全体の場では、友達の作品のよさを紹介する形にする。その際、児童が友達の作品を近くで見ることができるよう、一部、席を動かし、全員が集まることができるスペースをつくりたい。そして、全員で、1つの作品を見て、友達の意見を聞いたから思いついたこと、よく見たからもっと気が付いたこと、といった全体だからこそできる意見の交流を大切にしたい。

5 題材の目標

○体全体の感覚を働かせてちぎった段ボールを、置き方を工夫して絵に表し、感じたことを話したり聞いたりしながら、作品の形や表し方の面白さなどに気付いている。

6 題材の評価規準

| | ア造形への関心・意欲・態度 | イ発想や構想の能力 | ウ創造的な技能 | エ鑑賞の能力 |
|---------|--------------------------------------|----------------------------------|--|---|
| 題材の評価規準 | ちぎってできた形の段ボールを使い、絵に表すことに取り組もうとしている。ア | 段ボールをちぎってできた形を基に、表したいことを見付けている。イ | 手や体全体の感覚を働かせて、ちぎってできた形を生かし、材料や用具を使いながら表し方を工夫している。ウ | 感じたことを話したり、聞いたりしながら、作品の形や表し方の面白さなどに気付いている。エ |

7 指導と評価の計画（全3時間）

| 時間 | 学習活動 | 学習活動における具体的評価規準等 | | |
|---------------|--|--|---|---------------------------------------|
| | | 観点・評価規準 評価方法 | 十分満足できると 判断される状況 | 努力を要する状況への 手だて |
| 第一次 (1)(2) | 段ボールを思いのままにいろいろな形にちぎった後、自分の気に入る形を選び、それを何かに見立てて画用紙にはりつけ、その形からイメージしたものをパスでかいていく。 | ア 児童の様子の観察 イ 児童の様子の観察 ウ 活動の様子の観察 エ 活動の様子の観察 | ちぎった段ボールの置き方や組み合わせ方を考えてはり、イメージしたことを形や色を工夫して表現している。 | 友達の活動の様子を見せたり、児童の側で対話をしたりしてイメージを引き出す。 |
| 第二次 本時 | 作品を鑑賞し合い、自分や友達の作品の面白さやよさを感じとって交流する。 | エ 活動の様子の観察 | 自分が感じたことを話したり、友達の感じたことを聞いたりしながら、作品を鑑賞し合い、形や色などの表現の面白さやよさを感じ取っている。 | 児童の側で、形や色などに着目しながら、一緒にどのような言葉で表すか考える。 |

8 本時の目標

- 感じたことを話したり、聞いたりしながら、作品の形や表し方の面白さなどに気付いている。

9 準備物

(指導者) 他のクラスの児童の作品、作品立て、ベレー帽、作品の題名を書く紙

(児童) 筆記用具

10 本時の展開

| 学習活動 | 教師の支援 ★努力を要する児童への支援 | 評価規準・評価方法 |
|--|--|--|
| 1 本時の学習目標と活動内容をつかむ。 | | |
| | じぶんやともだちのさくひんのかたちやあらわしかたのおもしろさを見つけあおう。 | |
| | ○ペアでお互いの作品をよく見て、友達の作品のよさを認め合うことを確かめる。 ○他のクラスの児童の作品を見せて、感想を発表させ、ペア鑑賞のモデルを示す。 ○1年生の児童にも分かりやすいよう、学習目標の出し方を工夫する。 | |
| 2 作品を鑑賞し合う。 ① ペア鑑賞 お互いの作品を見て感じたことを、話したり聞いたりする。 ② 全体鑑賞 友達の作品を鑑賞し、全体で交流を深める。 | ★話すことが難しい児童には、側で声をかけて支援する。 | ○感じたことを話したり、聞いたりしながら、作品の形や表し方の面白さなどに気付いている。 エ |
| 3 作品カードを書く。 自分の作品のよさを大切にし作品の題名や説明を考えて書く。 | ★書き悩んでいる児童には、希望する人の題名や思いを取り上げ、参考にさせる。 | |
| 4 活動をふり返って、今後につなげる。 | ○自分や友達の絵のよさを見つけ、伝えることができたか、自己で活動の達成度をふり返らせる。 | |